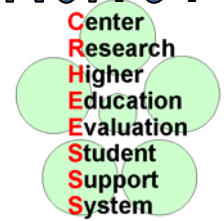


# 週刊センターニュース

No.131



第 131 号 (2006 年 10 月 23 日) 毎週月曜日発行  
発行：金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL：http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\_rche/index.htm

## 第 133 回共同学習会のご案内

日時 10月24日(火) 16時30分～18時

場所 角間キャンパス総合教育棟2階大会議室

テーマ 就職支援について

発表者 岡本 真由美(就職支援室) 青野 透(大学教育開発・支援センター)

趣旨 本年7月に教育企画会議キャリア形成支援委員会が発足し、その中に就職支援部会も作られ、9月に第一回部会が開催された。法人化後、いわゆる「出口」における学生支援に大学がどれだけ精力的に取り組むか、注目されている。本学の就職支援のあり方についての自由な意見交換を目的として、この共同学習会を開催する。

## 保健管理センターに新しいカウンセラー、足立由美講師が着任されました

保健管理センターを中心とした本学の学生相談体制は、総合教育棟「なんでも相談室」における学生・院生による相談担当、保健管理センター南分室におけるピア・カウンセリングなど、相談窓口の増設、担当者としての学生の位置づけといった試みを続けてきました。全学部のアドバイス教員により、入学直後から全ての学生がサポートを受ける仕組みも動いています。しかしながら、どうしても、メンタルヘルスの専門家である専門カウンセラーに相談を委ねざるをえない場合もあることは事実です。学生たちがアドバイス教員に、なんでも相談室に、気軽に相談できるようになり、同時に、深刻な悩みが保健管理センターに持ち込まれるということも頻繁になってきました。保健管理センターの鈴木健一助教授は、たった一人の専任カウンセラーとして文字通り、燃え尽き症候群になるのではないかというほどの相談件数を抱える状態が続いてきました。

このような状況にあって、中林保健管理センター長および鹿野教育担当理事の強い要請に林学長が応え、ようやく二人目の専任カウンセラー着任となった次第です。それでも大学の規模としては決して満足のいくカウンセラー数ではありませんが(非常勤として3名のカウンセラーの方々もおられます)、本学の学生相談体制が質量ともにより充実したものとなる契機と考えます。

以下に足立講師から寄せられました自己紹介を紹介させていただきます。

「10月1日に保健管理センターに赴任した臨床心理士の足立と申します。私が取り組みたいことは、学生および教職員の心理的サポート、および大学全体のメンタルヘルスを高める体制作りです。学生を在学中見守り、心の健康を高め、問題を解決する手助けができればと考えています。教職員の方々の相談もお受けしています。また、保健管理センターが取り組んでいる健康管理・健康教育に尽力していきます。よろしく願いいたします。」

学生相談専門委員会委員長の立場からも、ご活躍に大いに期待したいと思っています。

(文責：教育支援システム研究部門 青野 透)

## e-Learning 教育学会紹介

10月21日(土)に大阪大学豊中キャンパスで開催された e-Learning 教育学会第3回大会(<http://www.mle.cmc.osaka-u.ac.jp/WELL/>)に参加した。この学会は、大阪大学サイバーメディアセンターマルチメディア言語教育研究部門を中心に、昨年設立されたものであり、CALL(Computer Assisted Language Learning)授業を中心とする e-Learning 教育実践事例についての研究および情報交換の場となっている。外国語授業担当者はそのほとんどが文系教員であり、この学会は、特にそれ

ら文系教員の e-Learning 実践における負担軽減を目指して活動している。学会として具体的に取り組んでいる項目としては、以下のものがあげられる（学会設立趣意書より抜粋）。

- ・学習コンテンツの制作方法
- ・コンピュータを活用した授業の具体的な実施方法
- ・e-Learning を簡単に実現するためのノウハウ：コンピュータに不慣れな文系の教師でも十分活用可能な独自開発の WEB 対応授業支援システム WebOCM（ウェブ・オーシーエム [http://www.mle.cmc.osaka-u.ac.jp/webocmhome/]）の操作方法等
- ・CALL 教室を効率的に設置あるいは運用するためのノウハウ
- ・当学会会員が個別に抱えているコンピュータ関連の問題の解消
- ・e-Learning 授業（WEB 授業）CALL 授業の実地体験
- ・その他

第 3 回大会では、前半に 3 件の e-Learning 実践事例、後半に 4 件の外国語 CU(Cyber University) プロジェクト関連の報告が行われた。以下に、実践事例 1 件（研究発表 2 の「大阪大学大学院工学研究科を対象とした「工学英語」について」と外国語 CU プロジェクト ([http://www.he.tohoku.ac.jp/~sugiura/cu\\_project/](http://www.he.tohoku.ac.jp/~sugiura/cu_project/)) について簡単に報告させていただく。

「工学英語」は、平成 14 年度から開講されている、工学関連の専門英語を学ぶ科目(ESP, English for Specific Purposes)で、遠隔授業形式の「工学英語」(前期)と対面授業形式の「工学英語」(後期)からなる。「工学英語」は、ネットアカデミー（アルク教育社 <http://www.alc-education.co.jp/academic/net/index.html>）と独自開発の課題提出システム(WRS, Writing Review System)を使った遠隔授業で、毎年六百数十名の大学院生が受講しており、そのうち 86%以上が学期最後まで受講し、最終試験を受験し、単位認定を受けている。インターネット利用のいつでも、どこでも学習できる点が大学院生にとっては学習しやすかったことと、WRS による指導が効果を挙げているものと思われる。「工学英語」では、「工学英語」受講者の約一割が受講し、対面授業による英語論文作成指導およびプレゼンテーション指導を受けている。こちらは授業時間、場所が指定されるため参加者が少なくなったとのことであった。このような専門英語の授業は、専門性を習得した人材の海外進出をさらに進めるためにも、各大学・学部においてさらに需要が高まるものと思われるが、e-Learning を組み込んだ学習形態の有効性が「工学英語」実践事例からうかがえる。

次に、外国語 CU プロジェクトであるが、これは、平成 11 年度より開始されているもので、「現代 IT 社会の技術的蓄積を、外国語教育の現場で生かそうとする e-Learning の取組である。プラットフォーム、コンテンツ及びその教授法という三つの開発を柱としつつ、文部科学省学術ネットワーク上の拠点を形成する七つの大学が連携し、膨大な学生数と多用なニーズに対して運用可能な実用的大規模展開を推進している（「研究構想」より抜粋）」ものであり、メディア教育開発センターとも連携し、具体的には、以下の 4 つの構想実現に向けて活動しているプロジェクトである。

- ・標準コンテンツ化構想：外国語 e ラーニング用標準化コンテンツの作成
- ・オープンコンテンツ構想：コンテンツの著作権を開放し、流通・再利用システムを構築
- ・WebOCM 構想：現時点で維持管理の最も容易で安価なシステムの導入
- ・オープン・コンソーシアム構想：参加校に自由にコンテンツとシステムを開放

現時点では、ドイツ語初級、フランス語初級のコースウェアについての開発が完了し、十数校でそれらを活用した実験授業が行われている。

e-Learning 実践の前提条件となるコンテンツは、一教員、一学部、一大学で作成するには限界があり、現在、各種プロジェクト、コンソーシアム等によりコンテンツ共有が進められており、この外国語 CU プロジェクトもそれらの一つとして、今後も活動に注目していきたい。

（文責 教育支援システム研究部門 堀井祐介）

## お昼のミニ講義「ランチョンセミナー」始まりました

後期の「ランチョンセミナー」が始まりました。今週は、『ヘルスケアウィーク』と題し、うつ対策、AED の使い方、風邪対策、食事バランスについて、役立つお話を聞くことができます。参加をお待ちしております。